

共同通信

2011年9月30日 181 (391号)

日本基督教団 西宮公同教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町10-22
TEL0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email : koudou@gamma.ocn.ne.jp
<http://koudou.jp/> 振替 01170-3-4901

To tell the story 81 「すべては神のお導き」

「こう見えて、意外と繊細で根は真面目、おまけに、かなりの心配性なんです。」照れながら言うこんな自己紹介が、実はピッタリと当てはまる、私、橋本淳子(36歳)。私の事をよくご存知の方は、「うん、うん。」と頷いた後、「でも、待てよ！本当に繊細なら、共同通信を通して、そんな事を言うわけがないだろう。。。」と心の中で呟いているはず。まあ、それはそれで良しとして、橋本にはそんな一面もあるという事をご理解頂きたい。

そんな私だが、最近ふと思う事がある。毎日の日課となった1時間のランニングの最中に、年齢のせいなの

か、自分の事をあれやこれやと考える様になった。「私は今、人生の折り返し地点にいるかもしれない。いやいや、何が起こるか分からないこの世の中。人生残り半分なんて言ってはいられないのではないか。ぼんやりと過ごしていくいいのだろうか。」と。決しての~んびり、ぼ~んやりと過ごしているわけではないのだが、不器用な私は、無駄な動きや考えが多いのも確か。ん~、やっぱり何かがおかしい。今までこんな事をあまり考える事もなく、毎日を慌ただしく、幼稚園生活もこれ以上ない位に楽しく過ごしていた。♪楽しい事をより楽しく♪の精神の私は、恵まれ

時代に振り回されるのではない
あの時 心を躍らせて生きた
後悔に 身をふるわせたこともある
笑い 泣き 歯ぎしりをした
今日 こんな決意をしたという

自分の人生を語ってほしい、
自分の人生を語ってほしい、
自分の人生を語ってほしい、
自分の人生を語ってほしい、
自分の人生を語ってほしい

た環境に自然に導かれていたのだと
思う。これぞまさしく、園長先生の
おっしゃる【神のお導き】だったのだ
ろう。しかし、卒園して早半年。娘2
人を小学校に送り出す毎日にも慣れ、
小学校でも今年は役員をさせて頂い
てはいるものの、何か物足りなさを
感じている。自分の中で、何かに向け
たいエネルギーが有り余っているの
かもしだれない。それが何に向けたい
モノなのかは全く分からぬのだが。。。ん？これはもしかして？。。。？ちょっとしたモヤモヤ気
分の病気を発病中の、今日この頃で
ある。

このモヤモヤ気分の病気から脱出
する近道としては、もっともっと自
分を知る事だと勝手に思い込んでい
る私。そこで、公同幼稚園での生活を
振り返り、自分が触れてきた事を確
認していきたいと思う。現在小4の娘
は、このゆびとまれ（未就園児の集ま
り）→プレぼっぽ（満3歳児クラス）
を経て入園。その後小1の妹が卒園す
るまでの6年間（2005年4月～2011年
3月）は、親子共々本当に公同尽くし
だった。色々な出来事があり過ぎて、
どれもこれもお腹いへっぱいに満足
させて頂いた事は覚えていても、細
かい記憶は飛んでしまう位。それを見
うと、園長先生や順子先生の抜群
の記憶力にはビックリ！！あんな事
やこんな事、時には「忘れて欲しいの
に～」と言う出来事でさえも、順子先

生に突っ込まれてドキリとさせられ
た方も多いのでは(笑)余談だが。。。、
高木小に通う小4の娘の担任の先生
は27歳の女の先生。聞くところによ
ると、公同幼稚園に通い、ランニング
姿で遊んでいたと！それを娘が園長
先生に確認。

娘「園長。Tって知ってる？」

園長先生「T？。。。M.Tの事か？
知ってるぞ！！」

何のヒントもない娘のぶっきら棒
な質問に、20年以上も前の園児（←
恐らく卒園後もそんなに交流もな
かったはず。）の名前を直ぐに思い出
せるだなんて～！！そこに、園児に
対する園長の『愛』を感じずにはい
られなかった。公同で生活してきた
こども達、我が子を含め、大切に見
守られていて幸せだなあ、と改めて
思う瞬間でもあった。

話が逸れてしまったが、娘達を通
して出会った公同幼稚園。在園中は
こども達と共に本当によく楽しませ
て貰った。ある時はアフロを被り縄
跳びの鬼コーチに、ある時は動くひ
まわりになり風車の販売員に、そし
てある時は相方R.Iさんと、殿とあん
みつ姫に仮装し、ダンスをしながら
あんみつ屋の看板娘（？）に！他にも
色々と目立ったパフォーマンスをし
てきた私。私の七変化を全部見た方
がいたら、それはキセキかも。しかし、
その七変化の度に、苦笑いしなが
らも、やれやれ仕方ないなあ、と目を

つぶって下さった園長先生、順子先生に。。。今だから言える、ごめんなさい。お祭り大好き、お騒がせな私。でも、いつだって本気で楽しむ事が出来た事を、いや、そうさせて頂いた事に心から感謝しています。

また園芸担当のメンバーの代表、母の会の役員、公同文庫の代表をさせて頂き、園との関わりも深くなつた。そのお陰で、陰で支えてくれる沢山の方々の存在にも気付く事が出来たし、善意だけで人はこんなにも動けるものなのか、と感心するばかりだった。社会全体の中で見たら、幼稚園生活は小さな世界かもしれないが、そんな小さな世界でも、人の心は育つ。人は一人では生きてはいけないし、人と人が繋がってこそ大きな力になり、支えになる。私はこれまでに沢山の方々に支えられてきた事を改めて思い返した。卒園間際の新沢としひこさんのコンサートは記憶に新しく、準備期間約1ヶ月半位の強行スケジュールにもかかわらず、多くの方々の協力により、素敵なコンサートにする事が出来た。新沢さんを囲んだ打ち上げのあの時の空間は、言葉では表現する事が出来ない位の心地良さがあったのを、今でも鮮明に覚えている。実行委員のメンバーは私の誇りであり、この先もずっと、心の支えになるメンバーである事は間違いない。

こんな風に楽しい思い出や良き仲

間、良き音楽との出会いも多くあつたが、引越しなどによる仲間との別れ、私的な事で言えば、最愛なる両親との早過ぎる別れを経験した。両親はいつも私に『淳は得な性格だよ。こんなに周りの人達に可愛がられていて幸せ者だね。皆に感謝しないとね。』と言っていた。二女特有の人懐こさやお調子者の面があるのは確かだが、本当に両親の言葉通りだと思う。この場をお借りして、私に関わる全ての方々に。。。いつも温かく見守って頂いている事に、深く感謝していると伝えたい。そして旅立った両親にも、生んで大切に育ててくれてありがとうと、今日も空を眺めて伝えたい。ああ、柄にもなくちょっぴりおセンチになってしまった。

それにしても、公同幼稚園って凄い事だらけ。そこにいる時は当たり前と思っていたけれど、一步外に出たらよく分かる。では一体何が凄いのかって！？何と言っても、公同幼稚園の永遠の若大将(←いつかの総会で、こんな事を言ってしまった私。今だから言えるごめんなさい、part II)＝園長先生と、新しい物、bigな物が大好きで、人をアッと驚かす事が出来る名人＝順子先生、お二人の存在。常に新たな希望と消えない夢を持ち続け、前進し続ける姿勢。そして、いつだって妥協せずに本物を求め、私達に提供してくれる。こんな素晴らしい事ってそうそうあり得ない。お

二人はいつ寝ているのだろう？と不思議に思う位に色々な事を考え、どんどん実行していく。私が思うに、同年代の方々より何十倍ものエネルギーがあるのではないかと。期待を裏切らないからこそ信頼関係が生まれ、先生方とも、園児とも、保護者とも、それぞれいい関係が保てるのだと思う。もちろん先生方一人一人の、瞬時の変化にも対応出来る力はさすがだと思う。先生方の進化の連続で、親も負けてはいられない！な～んて、体育会系で負けず嫌いの私は、関係ないのに変に力が入ったりした時もあったけれど（笑）実際には張り合う必要はないのだが、こんな風に刺激を与えて貰えるなんて、良い環境＆良い関係が築けている証なのではないだろうか。毎年母の会を中心に、お母さん達の頑張りやしっかりした協力体制を目にして凄いなあと感心するし、のびーるさんを中心としたお父さんパワーだって負けてないし、それに何だかお茶目だし（大先輩のお父さん、ごめんなさい）。大人が一生懸命になって、本気で楽しめるって最高だなあって思う！！大人が素で楽しむ姿こそ、もっともっと子ども達に見せるべきなんじゃないかと。大人の本気をいっぱい出せる、運動会やおまつりはもうすぐ。気が早いけど、考えただけで何だかワクワクしちゃう♪♪♪

4 そろそろ締め括ろうと思ったが、

最近あったある1日の素敵な光景を紹介したい。2011年9月18日（日）。場所は長居陸上競技場。友人のFちゃんと一緒に乗り込んだのは、Mr. Childrenのコンサート。Bigなアーティストだけあって、5万人の来場者が一つになり、盛り上がった3時間。しかし単に楽しむだけではなく、3月11日に起きた『東日本大震災』への想いもそこにはあった。「被災地に行き音楽を届け、少しでも喜んで貰いたい。元気になって貰いたい。」というメンバーの強い想いで9月下旬に宮城での追加公演が決定。そして、その日会場にいる皆の元気を被災地へ届けよう！と、5万人ひとりひとりが元気な花を咲かせるイメージを体全体で表現し、ビデオに収めた。広島、熊本、神奈川、愛知、大阪での公演が既に終わっており、全ての会場で同じ様な光景がビデオに収録され、それをビデオレターとして宮城に届けるというのだ。そんな風にしか想いを届ける事が出来ないけれど、そこにいた一人として胸が熱くなった。そして、ライブ中にある映像が繰り返し大画面に映し出されていた。『ひまわり』と『風車』の映像である。幼稚園では今年、門を出てすぐの津門川沿いにひまわりの種を蒔き、夏中綺麗な花を何本も咲かせていた。そして、咲き終わった花の所には、色とりどりの風車が差し替えられ風に揺れている。『ひまわり』と『風車』、どちらも幼稚園の象

徵になっている物。しかも、風車に関しては、現在、公同文庫を中心に風車キットを隨時作り、東北に送るというプロジェクトが進行中であると聞いている。このBigアーティストと連動して行われているかの様に思われるこのプロジェクト。同じ想いで動いているのかもしれない。その映像を見た瞬間鳥肌が立ち、そう思わずにはいられなかった。空と空は繋がっている。人は、風を肌で感じる事が出来る。そして、風車が風を受けて回る姿によって、風を見る事が出来る。いろんな人の、いろんな想いが、東北の方々に届けば良いな。。。と、心から願う。

真面目に書き進めてきたが、やっぱり想いを伝えるって難しい。けれど、ちゃんと伝えようと、まずは自分の気持ちと向き合って事が本当に大切だと実感した。前述したモヤモヤ気分の病気は一体何だったのか？今、なぜか心が落ち着いている。色々

慌てて決める事はないのかもしれない。背伸びせずに、今自分に出来る精一杯の事を、今日の一歩が明日に繋がる事を信じて、自分を見失わずにやる事が1番なんだろうな。ほんの少しの力かもしれないが、風車のお手伝いにも、パンのお手伝いにも、うまく時間を作って参加出来たら良いなと思う。在園中に何かと鍛えられた精神力をバネにして、これからも謙虚さを忘れる事なく、強く生きていける女性（これ以上パワー全開の、強烈な関西のおばちゃんになるつもりはないのだが。）を目指したいと思う。きっと、『すべては神のお導き』により、これから的新しい自分に出会えるはずだから。

（橋本 淳子）



日本基督教団西宮公同教会集会案内

早 天 祈 祷 会	毎月1午前6時30分から	於：西宮公同教会集会室
教 会 学 校	毎週日曜日午前9時から	於：西宮公同教会礼拝堂
聖 日 礼 拝	毎週日曜日午前10時45分から	於：西宮公同教会礼拝堂
聖 書 研 究 祈 祷 会	毎月第1・3水曜日午後7時から	於：西宮北口西伝道所
読 書 会	毎月第2・4水曜日午後7時から	於：西宮北口西伝道所
ゆっくり聖書を読む会	毎月第2曜日午前10時から	於：西宮公同教会集会室

私は今日宗教以外のことを語ったでしょうか。宗教とは、およそすべての行為、すべての内省ではありませんか。そしてまた同時に行為、内省でもなく、ひとがその手で石を刻み、機織（はた）に気を配る間にも、魂からほとばしり出る不思議と驚きなのではありませんか。

（「預言者」カリール・ジブラン）

マルコによる福音書6章1～6節の、郷里でのイエスの働きについての報告は、イエスを特別の人として見る見方を意識的に退けているように思えます。「イエスはそこを去って、郷里に行かれたが、弟子たちも従つていった。そして安息日になったので、会堂で教え始められた—」は、3章1節の「イエスがまた会堂にはいられると」、4章1節の「イエスはまた、海べで教えられると」などの、いつもと同じ活動についての報告・記述となっています。けれども、「それを聞いた多くの人々は、驚いて言った」あたりから、いつもとは様子が違ってきます。「この人は、これらのことなどをどこで習ってきたのか。また、この人の授かった知恵は、どうだろう。このような力あるわざが、その手で行われているのだろうか、どうだろう—」と。「この人」のことを知っている郷里の人々は、知っているはずのこの人の思いがけない“知恵”“わざ”に驚くのです。知っているはずのこの

人は「この人は大工ではないか。マリヤのむすこで、ヤコブ、ヨセフ、ユダ、シモンの兄弟ではないか。また、その姉妹たちも、ここにわたしたちと一緒にいるではないか」という家族構成で、大工の仕事をしていた、よく知っているイエスなのです。けれども、このイエスの教える余りの力、知恵に、郷里の人たちは驚いてしました。マルコによる福音書は、郷里の人たちの驚きを「。。。こうして彼らはイエスにつまずいた」と書きます。続けて、そんな郷里の人たちの驚きへの反応のこともマルコによる福音書は書きます。「イエスは言われた、『預言者は、自分の郷里、親族、家以外では、どこででも敬われないことはない』」「そして、そこでは力あるわざを一つもすることができず、ただ少數の病人に手をおいていやされただけであった。そして、彼らの不信仰を驚き怪しまれた」と、郷里ではさんざんであった、と取れなくはない書き方をしています。

で、本当に郷里ではさんざんだつたと、マルコによる福音書は書きたかったのだろうか。イエスの郷里の人たちは、会堂で彼の教えを聞きます。「どこで習ってきたのか」はともかく、「授かった知恵はどうだろう」「このような力あるわざ」などと、驚いている様子は、本当に心底驚いています。続けて、家族構成や、大工が仕事であったと書いて、「こうして彼らはつまづいた」だったりするのも、郷里で示した知恵や力が驚くほど大きかったということの反映ではあります。

「預言者は、自分の郷里、親族、家以外で、どこででも敬われないことは」が、イエスの言葉として書き加えられます。確かなのは、預言者というものが、いうところの「自分の郷里・親族、家」で最初から敬われる存在だったら、預言あるいは預言者というものは必要がなくなります。預言者が、例えば郷里でも語ることがあるとすれば、そこで起こっていること、なされていることへの厳しい批判であったりするのが、そもそも預言というものなのです。例えば、イザヤ書で、預言者イザヤがヒゼキヤ王に語る言葉は、その滅亡です。「そこでイザヤはヒゼキヤに言った、『万軍の主の言葉を聞きなさい。見よ、すべてあなたの家にある物およびあなたの先祖たちが今まで、積みたくわえた物がバビロンに運び去られる日

が来る。。。』」(イザヤ書39章5、6節)。預言者の預言は、身内には聞きづらいものであるというのは、一つにはその運命の過酷さを、包み隠さず語ってしまうからです。その結果、預言者は煙たがられたりしますから、割に合わないということにはなります。そんなことは、承知の上で、「。。。どこででも敬われないことはない」と、マルコによる福音書が語っているとすれば、この話でもって、イエスを評価していることになります。ただ、その場合でもマルコによる福音書は冷静で、過大に評価することを慎んでいるように読めます。「。。。ただ少数の病人に手をおいていやされただけであった」と。たぶん、大活躍するイエスではなく、どんな場合でも必要最低限の働きは果たす、というのがマルコによる福音書のイエス理解であったのかもしれません。

(菅澤 邦明)



～今月の祈り～

あっという間に秋の気配。空を見上げると鷗雲、風の中にはキンモクセイの香りが漂っています。

どんな困難や悲嘆の中にあっても、季節は巡ってきてしまう。あの時に戻りたくても、戻れない。けれど明日がやってくる。

今年の秋の自分は、一年前の自分より大きくなっていますように。

「あなたは祈る。なやみともとめのときに。

しかし、もし喜びの溢れるとき、

満ち足りた日々にも、祈ることができたら。」

(「預言者」カリール・ジブラン)

苦しい時にばかり祈っていましたが、感謝の祈りを心から捧げることが出来るように、どうか導いて下さい。

(大平 有紀)

“今の季節、今しかできない経験”

9月も終わりに近づき～と書き出したいところなのですが、台風の影響もあって9月からの子どもたちとの日々は、今現在で半月分ほど。なのに、過ごしている時間が豊かすぎて話題が尽きません。

始園初日から、巨大スイカのお出迎え。ぽっぽ組（3歳児クラス）のみんなにとっては初体験です。自分よりも大きなスイカに興味津々でしたね。ぽんぽんとたたいてみたり、抱きついてみたりして、その感触を楽しみました。さて、そこから始まって、順子先生のお楽しみの時間「緑シリーズ」の登場です。緑色の野菜や果

物がずらーり。その中に、緑色高級マンゴー、ひょうたん、夕顔など、なかなか見ることのできないものも・・・順子先生の服も緑でした。そして、その名前を考えるなど、「本当に今日は始園日？」と思うほどの笑顔いっぱいの時を過ごしました。そして、この巨大スイカと緑シリーズの時間は次へとつなげられ、巨大スイカのその重さクイズを楽しみ、味わい、登場した野菜たちも、次々とみんなのお腹の中へとおさまっていました。ちなみに、登場してから5日後の重さは75キロ。巨大スイカを見るだけでは終わらず、最後まできっちり楽しん

でしまうみんなの姿は、とても輝いていました。

たった数日でこれだけの出来事。きっちりと楽しんだ後は、後川からのお米の「脱穀」です。その様子を見たり、年長組は体験したり～。自分たちも体験してみたくて、年長のねっこ組の白の帽子をまねて、帽子を裏返しにひっくり返す「ぱっぽ ねっこ」組が登場した時には、それはそれは温かい笑いに包まれました。そして、ここでも脱穀するだけでは終わらず、♪もみすりおかた～♪と、わらべうたを口ずさみながら「モミすり」をする姿を見ているこの頃です。素敵ですね。

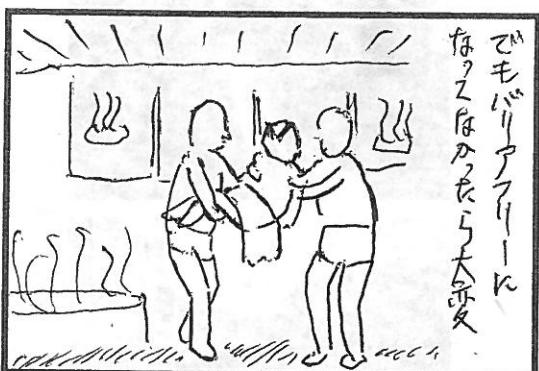
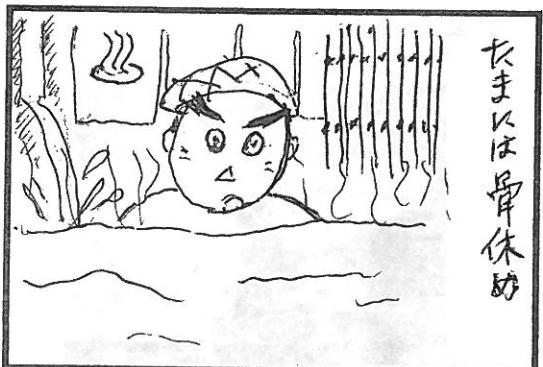
敬老の日にむけても、それは豊かに過ごさせていただきました。それぞれの学年で味わいのある、心のこもったお便りを製作して届ける時間にも、いろいろな物語がありましたよ。年長組のおじいちゃん、おばあちゃんと一緒にたっぷりと「おはぎパーティ」を楽しんだひととき。そしてそのあとは、母の会の方々のたくさんのご協力のもと、おいしいおはぎをたっぷり味わいました。「いつも見守ってもらっている」ということに、改めて感謝した日々となりました。

子ども達と共に、「今」を大切にしている場所で、自分を過ごしていることが嬉しい日々です。

(木村 寿実)

△ 晴れのち福ちゃん さちあ画

ゆっくり、ゆっくり



大切な贈り物・津門川 105

“津門川で見つけた魚”

大きな台風がやってきた9月。津門川はいつもの穏やかな流れを一変させ、濁った大量の水をごうごうと音を立てて流し、自然の猛威を私たちに知らしめる川になりました。

朝晩の風がだいぶん涼しくなってきた9月下旬。津門川沿いのひまわりはほとんど“かざ車ひまわり”に生まれ変わりました。



“かざ車ひまわり”を眺めながら歩いていると、台風が去って再び穏やかに流れる津門川に、キラキラと背中を光らせながら泳ぐ小型の魚がいるのに気付きます。

よくよくみると、なんと“鮎”。石についたコケを食べるため、綺麗な水の中でしか生きられない魚です。

さっそく釣り糸を垂らして捕獲作戦を実行したものの、鮎専用の釣り糸にも関わらず中々釣れません。一緒に鮎釣りを見ていた幼稚園の子ども達は、その様子を見て「鮎はな、かしこいから糸が見えてるねん」とつぶやきが聞こえきました。



幼稚園前の道路は、2011年9月1日より、24時間歩行者専用道路になりました。

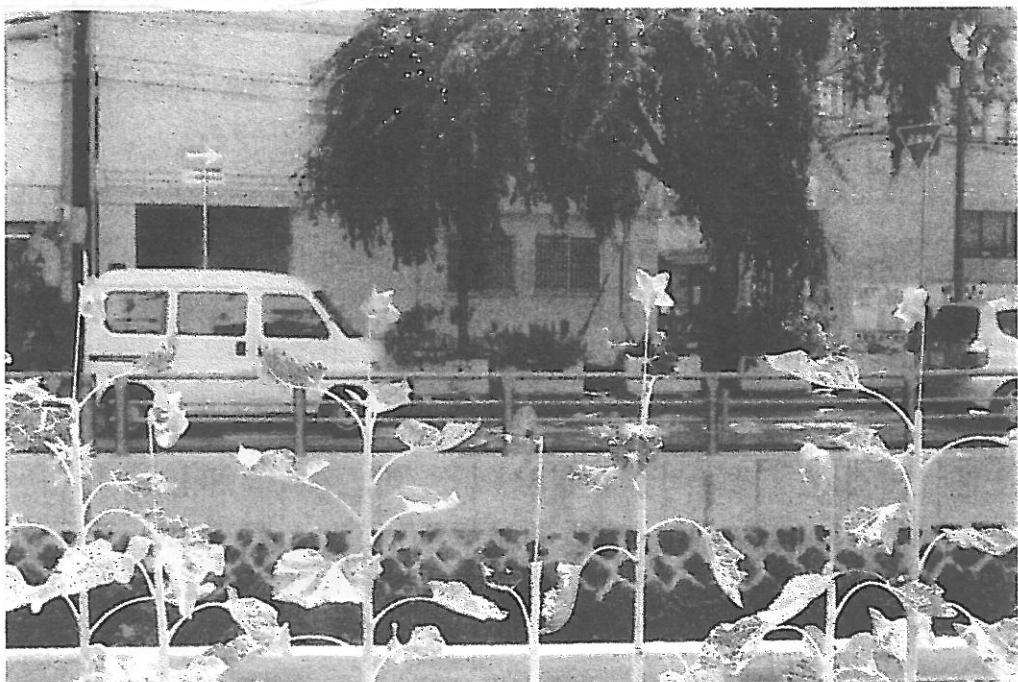
畑で、駅前の公園で、そして園の前の川沿いで「夏」を思いっきり主張し、何よりそこを通る人を楽しませてくれたひまわり。篠山の後川で生まれ、昨年西宮で育った花からの種、「篠山生まれの西宮育ち」。ひまわりの花が街の中にことばを溢れさせてくれました。「いつ咲くか楽しみですね」「咲きそうですね」「咲きましたね」、道行く人の心と心をつなぐ働きをいっぱいにしてくれました。8月3日にふたつの花を咲かせてから広がったひまわりロード、いよいよ最

終ステージ。抜かれるのではなく、先のほうを切ったその茎に今「開いて」「輝いて」、何より「風を届けて」いるのは、何と可愛いかざぐるま。

このかざぐるまは7月のおまつりに登場し、そして門にはかざぐるまアーチが。東北の被災地で暑い時期に少しでも風をという思いで仮設住宅などにも届けられました。

台風と共に9月ですが、強い風の中残ったひまわりに負けずにそこにいます。黄色い凛としたひまわりは、まだ数本花が。かざぐるまはひまわりと反比例してどんどん増えていっています。公同幼稚園の前の素敵な景色をぜひ見にきてください。

(西宮公同教会・幼稚園ホームページ「“公同幼稚園”今日の写真だより」より転載)



2011年9月 あんなこと こんなこと…

◇教会／教会学校

- ・9月 1日（木）早天祈祷会（毎月第一日）
- ・9月 7日、24日（水）聖書研究祈祷会（毎月第一、第三水曜日）
「詩篇の信仰と思想」（月本昭男著）
- ・9月 11日（日）平木まつり／大正区エイサー祭り
- ・9月 13日（火）「ゆっくりと聖書を読んでみませんか」
テーマ：カリール・ジブランの「預言者」から“愛”を考える
「急援隊・神戸」報告会 報告者：庄司宜充 場所：関西学院会館
- ・9月 14日、28日（水）読書会（毎月第二、第四水曜日）
『痴呆を生きるということ』（小澤勲著）
- ・9月 20日（火）「教会の火曜日」読書会」「『ねむれなければ木にのぼれ』（ジョーン・エイキン著）を読む（毎月第三火曜日・今回台風による休園の為27日に変更）

9月11日の平木まつりには、幼稚園の子ども達は津門川音頭と楽器の演奏、教会学校は射的の出店で参加しました。

◇幼稚園

- ・9月 1日（木）2学期始園／ブックスタート
- ・9月 16日（金）おはぎパーティ
- ・9月 24日（土）102条園研修会
チエルノブイリ・ハート上映会／小林圭二先生講演会

今年で第5回目になるLALALAミュージシャンコンテスト。4日（アクタ西宮大学交流センター）、11日（阪急西宮ガーデンズ）、18日（西宮公同教会）で予選が行われました。本選は10月18日（火）芸文センター中ホールで行われます。

◇にしきた商店街

- ・9月 4日（日）川掃除（毎月第一日曜日）
 - ・9月 18日（日）LALALAミュージシャンコンテスト予選 場所：西宮公同教会礼拝堂
- ☆9月1日より、幼稚園前道路が24時間歩行者専用道路になります。



◇アートガレーデ

- ・7月 5日、19日（火）丹波野菜市（にしきた商店街）（毎月第1、第3火曜日）

◇関西神学塾

- ・9月 9日（金）「自然界からの復讐」講師：新免貢
- ・9月 30日（日）「トーラーを学ぶ～契約の書を中心に」講師：勝村弘也

東北・関東大地震・大津波の被災地と被災者に、西宮公同幼稚園園庭のパン窯“アルトス”で、六甲の自然水、国産小麦、白神こだま酵母を使ったパンを焼いて届けています。
9月のパン焼きは2日（金）、15日（木）、30日（金）です。

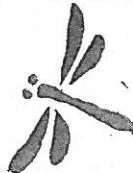
教会学校から

《2011年8月の活動報告》

◇8月23日（火）～27日（土）「子どもの時間・子どもの時代」写真展

◇教会学校は8月28日（日）

「おみやげ&おみやげ話パーティ」



《2011年9月の活動》

◇9月4日（日）幼稚園と一緒に礼拝・うたとダンスの集まり&冷たいおやつを食べる

◇9月11日（日）

東北弁勉強会・東北トランプで遊ぶ

「おばんでがんす」「いじくされ～」「ちょっへ」！

初めて聞く東北弁にびっくりしたりしながら、東北弁“巨大”トランプで神経衰弱を楽しみました。

◇9月18日（日）

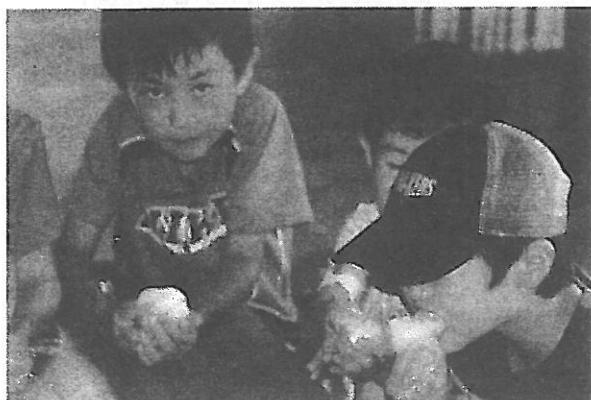
お米&お酒クイズ！後川の新米おにぎりを食べよう

年長組の子ども達が田植えから稻刈りまで、そしてその成長の過程の節目節目で見守ってきた篠山市後川の田んぼと稲。お米クイズを楽しんだ後、3日前に脱穀したばかりのピカピカ、炊き立てのごはんを子ども達が自分でおにぎりにして食べました。

◇9月25日（日）

“ミサンガ”作り

一人じゃできない、二人だったら簡単にできる、不思議な不思議なミサンガ作り。夢中になって2つも3つも作っている子どもたちもいました。今回身に付けた“技”は来週活かされる予定です。



つとがわ 編集後記

子どもたちと、秋の西宮を少し歩きました。ひがんばなが、いつもの場所に、いつものように咲いているのに安心しました。庭にエゴを植えることが多くなったのは、春に咲く満開の白い花が人気なのかもしれません。子どもの頃のエゴの木の記憶は、花よりも皮がはじけた実を集めて、固い実がカチカチ音をたてるのが魅力でした。春に、同じように白い花を咲かせるヤマボウシを街なかで見かけるようになりました。子どもの頃、ヤマボウシはめったに見つかりませんでしたが、秋に濃いオレンジの実を割って現れる、ねっとりと甘い果汁は魅力でした。

U 小学校の裏のすき間の道を歩いた折には、職員室まで足を運んで、「校庭の隅のクルミを少し頂いてよろしいですか」と断つて、クルミ取りをさせてもらっていました。数年前に、バッサリ枝が切られてしまいましたが、今年はクルミの房がいくつも見つかりました。

同じ道を歩いて、年によっては少しは違うものの、記憶に残っている光景に出会ってほっとしています。それがきっかけになり、ずっと昔のこととも思い出しています。

(K)

最近、ミキサーを買いました。休みの日の朝ごはんはミックスジュースを作つて飲む事が楽しみになりました。いろいろ試そうと思いつつ、牛乳、バナナ、りんご、みかんで満足してしまっていたりして、他に何がいいかな~と。キウイとか♪カキとか?野菜も入れてみる?とか。でもほんとは美味しいかったあの、ビシソワーズを作る為に買ったんですけどね~。

(I)

私は秋が好きです。キンモクセイにコスモスに~大好きな花の咲く季節もあり、サンマにナシに栗に~美味しいものがいっぱいの季節もあります。

食欲の秋、スポーツの秋、読書の秋…いろいろあります。が気候がいいのでいろんなところにぶらり~の秋もいいかなあと思っています♪

(Y)

8月のまだまだ暑い時期から店には秋服が並んでいて、早すぎるなあ・・・可愛いけどまだ買う気にはなれないなんて思っていました。9月ももう終わりを迎えるとして、やっと涼しくなり、

少しづつ秋服を楽しんでいます♪お気に入りの店に行くと、あれもこれも~なんて思つて大変です・・・(笑)

上着を羽織らなくてもいいこの季節。秋服も樂しみながら、気持ちのいい風をいっぱいに感じたいと思います。

(N)

裏庭で秋明菊が次々に咲いています。水仙、都忘れ、あじさい、ラベンダー、ミニバラ、そして秋の菊などさやかに花壇を彩るメンバー、その開花を待つて切り花の束にしてはご近所に。「仏様に」「ご仏壇に」と届けるところ数軒、とても喜ばれている。花の水やりの心得は幼稚園の西の裏のおばあちゃんに教えてもらった。もう30年近くも前のこと。「どのくらい水がほしいかその花がちやあんと教えてくれますよ」。花の種類によつてそれは違うよと、今はくすの木広場になっているところにあったあじさいに水やりをしていたら、さく越しに声をかけてくださつたのだ。子どもたちの遊ぶ様子をこっそり楽しみながらいつもご自身の家の庭の水やりをしておられた。人がすぐそこにいても子どもたちが緊張せずに遊んでしゃべつてと裏を満喫できていたのは、あのおばあちゃんは魔女だったのかもしれない。「菊はいやしんぼうでよー」、そう言つていたのは16、7年前に住んでいたところの裏のおばあさん、けたたましいところがあつたけれど、秋明菊を挿した花瓶の水が一日で半減するのに今年も驚きながら、けたたましい声を懐かしく思い出した。たっぷりやることの大切さと、でも根元を傷めないようにそして根を甘やかせないように、そんな花談義を楽しんだのはベンキやさん、面白い人だった。そんな先達からの教えと自らの長い体験で、「花の水やり」は自称“名人”。

(J)

